

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

“忙しいこと”と“働いていること”は違う

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【社会的な価値観の変化？】

たとえば、新聞記者などを描くドラマで、記事を書いては破棄し、また書いては破棄しながら悩む姿が描かれていた時期もありました。

しかし今は、取材から帰ってパソコンに向かい、“あっという間に記事を書き上げる”記者を描くドラマの方が多いかも知れません。

【役に立たない努力は評価すべきではない】

ドラマでは“余計なシーン”を描かなくなったこともあるでしょうが、それは社会的価値観の変化の反映だと言えるかも知れないのです。

つまり今や、考えを整理しないままに作業に突入して、無駄な作業を繰り返すタイプの“努力”が評価されなくなったということです。そんな努力は“役に立たない”からに他なりません。

【それが社内の常識になっているか？】

ただ、『そんな“傾向”が自社内で常識になっているだろうか』と問いかける経営者がおられます。つまり“忙しさ”の内容が問題なのです。

逆に、従業員サイドでは、単に“忙しい”だけで、会社への貢献を主張するかも知れません。

【改善課題の中にある“困った問題”】

そんな状況を回避するため、必要な業務に集中し、無駄な作業を排除するのが、まさに“生産性”のテーマになります。ところが、ここに“困った問題”が発生するのです。

【働き方にも“見える化”が必要】

その“問題”とは、実は働いている当人にも、自分の“働き方”が他者と比べて“どう”なのかを知る機会が少ないし、それ以上に、管理者や経営陣にも“個々の従業員の働き方が見えない”ケースが多いという現実です。

そのため“生産性向上”策が、単なる“掛け声”に終わったり、別の“不都合”の原因を生んでしまったりするのかも知れません。

【マネジメント・レポートを差し上げます！】

では、社内から“無駄な作業”を排除し、各担当者が“効果的に働いている”と言える状況を創り出すには、どうすればよいのでしょうか。ある経営者の“調査報告”をレポートとしてご用意いたしました。マネジメントレポートは有料定期購読者にお渡しいたします。ご一報ください。



日々、社内では誰もが忙しく“働いて”います。しかし、それは効果的な、あるいは企業目的に合致した“働き方”なのでしょうか。もしかしたら、忙しそうに働く担当者も、自分の勘違いなどから、単に“無駄な作業”を繰り返しているだけかも知れないのです。

もちろん“そんなことはあり得ない”組織でも、社内の“働き方”に、マネジメントの“メス”を入れるだけで、もう一段“生産性”を上げることができるかも知れません。その具体的な方法とは…。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>